

波紋



Ripple

創刊

1985年（昭和60年）7月

No. 340号

第21回 「元気が出る森松展」

恒例となりました。「元氣が出る森松展」が10月3日（木）、4日（金）の2日間、森松本社5Fで開催されます。今年のテーマは「SAKIDORI」～最先端をフライングゲット～『最先端の情報・新商品』を同業他社よりも「先に掴み取り」、「2014年」に向けて先取り出来る展示会にすることをコンセプトに決めました。今年も各仕入先様に新商品、目玉商品を展示していただきます。最新の情報を御来場いただいたお客様に先取りしていただき、商売に役立てて頂きたいと思います。講演会も2日間予定しております。

・10月3日（木）14時（

「知財の罫と回避法・活用法」

「特許。意匠、著作権、不正競争防止法等のポイント」

講師・・丸山明夫（丸山特許事務所）

・10月4日（金）14時～

「バイオマスプラスチックの現状と今後の取り組み」

講師・・猪股 勲（日本バイオマスプラスチック協会 顧問）

伊東郁二 実行委員長を中心に、お客様に喜んでいただける展示会にしていきたいと思います。皆様のご来場を社員一同お待ちいたしております。

副委員長 岩間正美

副委員長 岩間正美

MORIMATSU
21st Annual
EXHIBITION

第21回
元気が出る展
* * 松展

最先端をフライング
ヤレ

SAKIDORI

2013/10/3-4
THU FRI

MORLIN

おかげさまで61周年
www.morimatsu.net

期限の意識

社長 森直樹



いよいよ近づいて参りました10月3日、4日開催の第21回元氣の出る森松展。新商品とともに今年も皆様の来場をお待ちしております！

さて締め切りを守る、そのための段取りを付ける。
 何事にも期限があります。自分自身も普段意識する
 ことは少ないにせよ、人生で仕事を続けられる期間、突
 そして自分の人生そのものにも限りがあります。突
 然の事故や災害で亡くなってしまう事も有るかもし
 れません。難しいことは、健康であるときほどその
 期間についてあまり考えることが無いという自分で
 す。たとえ話をする、もしもあと3ヶ月しか自分は
 が生きられないということが分かったとき、自分は
 誰に連絡を取り、どんなことを片付けるのか、どこ
 に行くのか。これらのことは期限が明確になった時
 ほど真剣に考えるものだと思います。一つ一つの仕
 事がその瞬間に動けるかどうかで流れが変わります。
 ちよつと電話を一本入れただけで上手い具合に進む
 ことも有りませんが、多くは確実に出来ることを積み
 重ねていった結果に成立することです。そしてひと
 つひとつの仕事の期限を意識すること。出来れば出
 来るほど、よりの確な判断と行動が見えてくると私
 には思っています。私自身これら期限を守るといこと
 についてかなり甘いと思います。あらかじめこれら
 のことを自分に言い聞かせる意味でも書いておきま
 す。38歳という自分自身年齢から考えたりもし
 も、という確率は低いにせよあり得ない話ではあり
 ません。そう、日々の仕事には限りありません。話
 識を持って、日々の仕事には限りありません。話
 いと思ひます。

成瀬 勝英（森松産業）



3年程前から、近くの温泉（主に大府の健康の森）へ、よく行くようになりました。1週間の疲れを癒すためです。当初は1ヶ月に一度程度でした。が、最近9時から入泉出来るので、起床が早い。私には丁度良い時間で助かります。さらに一番風呂を目指すのも楽しみです。この早朝の時間帯は比較的空いている事もあり、のんびりゆったりと入れるのでおすすすめです。朝はお年寄りが多く、若者は稀なので静かにゆっくり過ごせます。また、風呂から上がった後は、常設された簡易ベツドで横になり、持ってきた本を読んでいる時間が最も心地良く感じます。温泉の情景に年寄り特有の動作のテンポもあり、時間の流れもゆっくり感に感じられ、時間に急がされる普段の仕事場とは真逆です。ちよつとした老後の予行演習とも言える様な場なのです。

以前の話になりますが、脱衣所で着替えていると隣のロッカーを使用するご老人から、私の着替えが早いと注意を受けました。

ご老人「邪魔になるかと」

私「老人「ええつて」」

なるほど。せっかちなのも場所によると考えさせられた。施設の土産コーナーにあった「ゆらん」という雑誌には、日本中の温泉施設の場所が掲載されている。興味として今後は、こうしたい温泉施設巡りも楽しいかと思いが、老後の目標になりました。そう感じています。

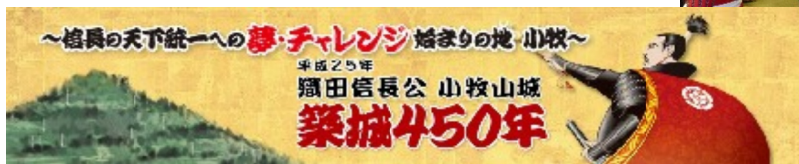
村田 恒夫（総務部）



先日、一般社団法人 環境共創イニシアチブから一通のメールが届きました。メールの内容は、1年前に、「建築物節電改修支援事業費補助金」を受理された皆様に、事業完了後1年間の実施状況報告書をご提出いただきます。事業完了後、実績節電値が、目標に達しない場合は、達するまで報告を行ってください。実施状況報告書が指定期間内に提出されない場合は、補助金返還と行政処分の対象となるので十分注意のこと。「建築物節電改修支援事業費補助金」とは、東日本大震災の電力需要対策の一環として、民生部門の節電を推進し、既築建築物に一定の節電効果を有する設備等を導入する補助事業を行うことにより、電力消費量に対して10%以上の節電効果がある場合に、その経費の一部を補助する制度です。森松株式会社としても、本社ビル節電改修（照明器具を省エネタイプへ交換）工事として交付申請し、交付決定後事業を完了し補助金を頂きました。事業完了から約1年、実施状況報告書を作成するにあたり、実際に照明器具の交換前と交換後を比較すると森松本社ビル全体（空調機等含）で消費電力削減率は約10%（請求書にて）の節電となりました。会社にとつて、照明器具交換費用に対して補助金、消費電力も削減できる等のおいしい情報「建築物節電改修支援事業費補助金」を発信、交付申請書・確定検査資料等の作成に關してもお手伝いして頂いたT社（電気工事）社長には本当に感謝しています。

これから、会社にとつてプラスになる助成金・補助金等には、積極的に取り組んでいきたいと思いました。

こまき信長まつり 森松武将隊が出陣 ! ! ! !



こまき信長まつり

黒松 康郎 (東京オフィス)



9月22日、小牧市でお祭りがあり、当社も森松甲冑隊として参加させて頂きました。私どもの仕入れ先である大阪のK商店様へ森会長がプレゼントをしたのが結構かつこよく、K社長夫妻も氣にいつて頂き、たいへん感謝しておりました。甲冑は、いつK社に行っても目に付く場所にあり、そうなるという自然に興味が出てくる氣がします。私も少し着てみようかなという氣持ちになり今回参加させて頂きました。

今年は織田信長公が小牧山に城を築いてから450年になります。これを記念して9月21日～23日まで「こまき信長まつり」が開催されました。全国の武将隊から選抜される「おもてなし武将隊 JAPAN」や、「名古屋おもてなし武将隊」、「あいち戦国姫隊」などに混じって、森松甲冑隊も参加。他の甲冑隊と一緒に練り歩きました。森社長も森松甲冑隊代表として、舞台に上がり立派に挨拶していたのが印象的です。周りのみんなが武将になりきった形で挨拶している中、緊張すると思いましたが堂々と挨拶して、たいした社長やなあ・・・と思いました。さて着た感じはプラスチック製ということもあり思っていたより軽く、着るとなんとなく姿勢を正したい気分になりました。当日は30度超えの真夏日。暑い日差しの中、私の娘も参加しました。娘の年齢的に言えば、「何で私が着やなあかんの？暑いやん！」と言いがちな高校2年生ですが、今回は家でも見せない姿を見せ、文句も言わずに着用してました。生まれたときから反抗期の娘だった印象なのですが、この態度に少し安心。年を取ると付き合いが悪くなりそうですが、今回私の娘は機嫌よくついてきました。たまには娘とデートも良いもので、また次回も来てくれそうな雰囲気なのが親としてすごくうれしく思いました。本当に良い機会だったです。帰りは「汗かいた」というような内容で服は買わされましたが、今回の娘にしても野球をやっている息子にしても、親が知らないうちには知らない顔を見せるように成長している氣がします。今度は親の見せられない顔を子供に見せてやりたい・・・私は戦国姫に変装希望。土田さんよろしく。今回参加された皆様、本当にお疲れ様でした。

第21回元氣が出る森松展

ラグナスイートホテル

3日18時00分～

本社ビル5階
9時00分～17時00分

第1土曜日休み

第2土曜日休み

体育の目

第3土曜日休み

加藤雅昭さん誕生日

生産会議
12時～13時

CS会議
14時10分～15時

第4土曜日休み



編集者
大石耕平 小原龍一 伊東義弥
小坂美香 松井官和 伊藤雅典

伊東 義弥（特販部）



一升と一生を掛けて、「一生丸く長生き出来るように」と願いを込めて、子供の一歳の誕生日のお祝いの際に背負わせるそうです。また一生食べ物に困らないように等の意味や、味も込められていると言われているそうです。この意味や

祝う方法等は地域や各家庭によつて様々らしいのですが、一般的には寿や子供の名前を書いた一升餅を1歳の子供に風呂敷や餅袋等で背負わせ、一生の重みを感じさせると言う行事で立つて歩いてしまふ子供の場合、わざと転ばせることもあるそうです。私の息子の場合は、わざと転ばせることもなくずつと転んでいきました。こういういた行事が徐々になくなりつつあるようなので、昔からある伝統行事というものは、大切にしていきたーいと思ひました。

